

| | |
|------------|--|
| 教員名 | 徳井 淑子 (TOKUI Yoshiko) |
| 所 属 | 生活科学部人間生活学科生活文化学講座 |
| 学 位 | 博士 (学術 2003 信州大学) 家政学修士 (1975 お茶の水女子大学) |
| 職 名 | 教授 |
| URL/E-mail | http://www.aesthe.ocha.ac.jp/fukshok%20history/ / tokui@cc.ocha.ac.jp |

◆研究キーワード

服飾 / ヨーロッパ中世 / 色彩 / 文様 / 懐古趣味

◆主要業績

総数 (5) 件

- ・「オリジナリティは引用の集積である：ファッションの歴史は語る」『映像情報メディア学会技術報告』vol.29 no.58 pp.1-4 2005年10月
- ・「歴史が紡ぐ感性：色と柄のイメージの東西」『第36回繊維学会夏期セミナー要旨集』pp.19-24 2005年9月
- ・「禁欲と知性の黒服」『ハイファッション』2005年10月号 pp.52-53

◆研究内容

ヨーロッパ中世服飾のシンボリズム研究の一環として、フランスを中心に、文学や図像における服飾表象の分析から色彩の象徴性を考察、特に15世紀を色の価値の転換期として、すなわち近代的な色彩感情の誕生の時期として位置付けた。

色彩感情の変化には、文様・紋章の嗜好が伴っており、具体的には黒の好尚と涙文の流行を中世末期の心性として分析した。すなわち年代記の記録や写本挿絵等の図像から黒服や涙文の紋章ドゥヴィーズの流行を調査し、それを促した感情を文学作品や色彩論の著作により明らかにした。

◆教育内容

服飾の歴史を通してヨーロッパの人々の感性を知るには、どのような資料を使い、どのようなアプローチがあるのか、西洋服飾史を概説するとともに、服飾史の調査の方法と資料を解説、あわせて服飾文化論を学ぶための基礎を講義した。

およびフランス中世服飾に関する論文の講読、18・19世紀のモード版画・文学資料の分析によって服飾史の論文を作成するための基礎演習を行い、ヨーロッパの生活文化史に関する卒業論文の指導へと繋げた。

◆Research Pursuits

Symbolic meaning of the French mediaeval fashion, mainly symbolism of colors and significance of patterns relative to device through the analysis of literature and iconographies.

◆Educational Pursuits

Lecture and seminar on cultural and historical studies of clothes, especially through the literary and iconographic sources in order to clarify the sensibility of Europeans.

◆将来の研究計画・研究の展望

中世ヨーロッパの色彩感情、あるいは文様の意図の16世紀以降の展開を視野に入れて中世の感性を歴史のなかに位置付ける。具体的には15世紀の色の価値の転換が、近代から今日にいたる色彩感情をいかに決定したか、また15世紀の紋章がエンブレムとしていかに展開したかを調査することによって、逆に中世文明を照射する。

◆受験生等へのメッセージ

衣服を着ることはたいへん卑近な事柄ですが、ゆえにひとの感情生活と密接に結びついています。着衣の文化を知ることは、ひとの心を知ることに繋がります。身近なファッションを通して、あるいは歴史上のファッションを通して、ひとの感情や心理を発見する可能性を広げてほしいと思います。